夕刊
磐城新聞
九月二十一日發行
定價 一ヶ月金六十五錢（郵税拾五錢）
廣告料金 普通欄 五號十二字詰一行 金六拾錢 特別欄 金九拾錢（指定一行十錢增）
編輯印刷兼發行人 [illegible]
發行所 磐城新聞合資會社
電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

新聞及新聞人（二）

白木英尾

○六號記事（十）

これは拔き書である。鄕土色はないが誰が讀んでも一寸面白いので私の特ダネとする。（尤も平町で三四の人々間には既に知られてはゐるが）

先づ新聞界近來にない連續ニュースとして其の裏には息もつかせぬ話題が起伏するといふ明糖の脫税事件である。あれは朝日と讀賣の特ダネで、そも／＼のネタの出所は政友會の一巨頭時代は濱口內閣華やかなりし頃、頹勢挽回に腐心する政友會の暴露戰術が警視廳の手に移つたのが始まりであつた。でそも／＼のネタの一巨頭とは？それが森恪氏だらうと言はれてゐる。

同一會社を繞り脱税や脅喝の事件が二重にも三重にも絡み、原糖の精製糖に至る課税標準のインチキ以外に津雲國利氏の暴露した關税の脫税、大沼辯護士の醜聞株屋街の騷ぎ、司法、大藏兩省の確執、時節柄軍部の不滿。これに動員された記者は、警視廳と東京地方裁判所の兩倶樂部、丸の內記者會、金融同志會及び各社政治部の記者が萬字巴となつて恐らく前古未曾有の陣營だつたといふ。

況んや讀者側では事件の複雜さに驚いたのも無理はない。時代も濱口から若槻犬養——齋藤と星霜を變へた。明糖が五十萬圓を提供して津雲氏に一切の關係を絕つてくれと申込んだ事件は東日の特ダネであつたが、明糖事件に關する限り[illegible]氏と影武者など使つて裏にも表にも活躍してゐる。何んだかんだと面黑い話はまだまだある樣だ。

×

次は八月初めの田中光顯伯隱居ニュース。これは東日社會面に突如浮んだのが始まりで報知が之に續いたあとの新聞は沈默を通したので、東日や報知は恰も天馬空を驅ける形、あまり驅け過ぎて五日目には、とう／＼落つこちてしまつた。

この樂屋を覗くと、光顯伯の秘書で大木某といふ人がある。水戶愛鄕塾の流れを汲んだその道の、チヤキ／＼だそうで、又東日社會部にはその從兄弟とか居るんださうだ。そこで我國粹團體が今の宮中寵臣に慊らないものがあるといふ話から、ハ、ーン成程と頷けるわけ。新聞で大きく騷げば思ふ壺になると思つてゐた筋書も、伯が新聞記者に向つて『君らは何を書いてるんだ』とお叱りになつた爲め事件は立ち所にスウツと消えてしまつた。然し肝腎の光顯伯が果して一木宮相や牧野內府に更迭を進言したか否かは遂に判らず仕まひ所で東日ではこの憂さ晴らしにこの程關屋宮內次官の退官を豫[illegible]したがこの

豫報うまく晴れゝばいゝが——

時事はこの事件で武藤社長自ら東日や報知のデマを野次つて『光顯伯には光雲野鶴があるのみ』とヒネつてゐたのは大當りだつたが次の今牧博士一味の隱謀事件では大ミツをつけた。あのニュースは斷然讀賣の一手販賣だつたが、警視廳詰の時事記者は讀賣と同時に同樣の原稿を本社へ送つて居た。所が本社の或る偉い人が折角のそれを屑カゴへボイしたといふ話。そして翌朝の時事紙にはナント！『今牧博士の迷惑』であつた。然し遺憾乍らこの時は博士一味が警視廳でチヤンと自白してゐた。都下の全紙へ出たのは讀賣が、グン／＼拔きまくつてから四日目、どうも澁々乍らといふ形で自供書を載せたのだつた。（この樣な新聞街の樂屋噺は澤山あつて書き切れないが鄕土色がないのでペンずくみする、之れ位にしておく）

雜詠

磯上六花

日永猫松より屋根に渡りけり
かけ砂糖苺の色の移りけり
初蟬や水打ちつけし寺土塀
蜘蛛垂れて水にとゞきぬ若楓
蒲公英折れたるままに咲き居たり
すべり台順待つ子等や藤若葉
大欠伸して沈みたる蛙哉
水仙の咲きし頃より母病みし
張板に泌む紺の香や五月晴

時代警語

○資産を蓄積せんには其の得る處を增すよりも寧ろ日常失费を節減するを肝要とす
（ブルンチユリー）

『無い袖は振れぬ』、吾人は須く其の間の消息を解し有る袖を大に振るの備へなかるべか[illegible]ある

大きな傘

小田俊夫

おや
お月さん
今晩は
風が
お寒う
ございます。
おや
お月さん
傘さいて
雨は
とうから
やんでます。
おや

拈華微笑

コレラ騷ぎに二日鑿されて明日市街戰演習

◇

窓硝子が壞れる水中爆破の轟音

明朝耳へ脱脂綿を詰める事

◇

蘭の値と共に再た發鑛家の意氣

◇

幾分釣り上がる

一等の風月に躍る香魚。詩だ、綸だ、而して食べ度いつ

◇

秋高肥馬。天候愈々定まる

お月さん
ゆらゆらと
はやう
その傘
たゝみやんせ。

社會の今日

9月22日

△會津落城（明治元）△橫濱に瓦斯燈成る（同三）△古名屋濠洲間の直通無電の試驗を爲す（昭和五）△朝鮮局長知事異動△新駐日支那公使蔣作賓着任△わが軍奉天より更にハルビンに北上△聯盟理事會で滿洲事變を上程、日支兩國に撤兵勸告決定（同六）

○。栗飯に子の友招びぬ誕生日　珠女

江の島や茶店女に秋燕　俳鐘生

散文の提唱ほか

（4）

三津木貞夫

散文の提唱

散文を提唱するからといつて、なにもぼくは詩の無意味を主張しようとするのではない。あとで小うるさいと困まるから神經過敏な磐城の詩人がたのために敢て斷はつて置きたい。

散文とはなにか。

ぼくは先生でないから散文の意義は知らないのだ。しかし、ぼくが知つて居る限りでは散文なるものは、小說そのものだ。即ち詩の抹殺だ。美の殺戮だ。出來るだけセンテイメンタリズムを排擊し、意志的に論理的に、唯物辨證法に忠實に素朴に、詩と美とを虐殺してかゝれた文章のことだ。ぼくの散文について知つて居るのはこの位ゐなものだばくは文學に就いては規則的な勉强したこともないし從つて學校の先生見たいな屁理窟は知らない。とは言へ、學校の先生になにが散文が判つて居るか。散文は風流事ではないのだ。むしろ逆に戰闘的なものなのだ日本の謂はゆる小說家なるものは、大体に於ては小說家ではなく小說家と稱する詩人でしかなかつたのだされば、我等はこれまで餘りにも多く詩人の小說を讀まされちいさき我が家の愛の頌歌をきかされた。しかしながら日本はいま漸く唯物辨證法の文學上に於ける實踐と倶に、散文が確立さるゝ機運に向ひ着々と散文が作られつゝある。

散文は詩と美の抹殺だ。

重ねて言ふ。

意志だ。

元來、ぼくは藝術、文學をも含めて、そんなものがなんだと言ひたい男なのだぼくは常住に病臥し、而かも隱栖の身であれば、敢て雜誌を出して磐城に散文雜誌を計畫する氣はない。だがしかし、ちいさき我が家の愛の頌歌を、乞食ゞ滾ばした見たやうにクヨ、クヨ念佛して居る歌人、詩人先生の氾濫して居る磐城に、散文に努力する人だちが集まり一つの雜誌を出してもいゝであらうと思ふ。ぼくはそれを希む、切實なるものがある。

講談

お蘭陀お蝶

（139）

渡邊默禪作
布施長春畫

身顫ひして睨みつけたが忽ち打褒れて

『と云つても返らぬこと』と愆うなるのも皆な業だと思へば腹も立てられぬ。いや腹を立てるどころではない。思ひ詰めた娘氣から、き、き、狂人になるまでも一途に男を慕つたその心が、私やむごたらしうてならぬのだ、ア、哀れな奴、ふ、ふ憫然だ、それゆゑに格之助さまも和女の心を汲取つて未來七生までも添ひ遂げて下さると快く納得なされましたぞ、さ、祝言をさせる魂があるならあらためて杯を取交せ、オ、お吉、思が叶つて嬉しいか、嘸嬉しい事だらうのう、嬉しければ今までの怨をさつぱりと忘れて了へ、アノお柳などを仇に思つてはならぬぞ、よいか。』

泣きながらの繰言はさながら現の人に對するかのやう、格之助の飮んだ杯盃を取つて机の上に置き、酒を注いで將の上にだら／＼とかけるとしづくはジユーと袖に泌みて何物かその唇に吸込むやうに見えた。怪しいといへば怪しい。

うつむき膝に暗涙を呑んでゐた平八郎は、此時につこと扇子を取つて

『繝同樣、祝着の至り千秋萬歲芽出たう壽き申す』

と磐張上げ

『龜は萬年の齡を經て鶴の千歲を迭りつつ舞ひ遊ぶ風情は又たぐひ、嵐の音はざゞんざ、濱松の音はざゞんざ』と明石の一節、立ち揚つて舞出した。

襖越しに窺いてゐたお各はうなづいて窃と其場を立つた。

×　×

吹田の渡で、おゆうと萬太郎が囚はれてゆく所を目撃したお柳は、直と其處から引返して、三人の成行を見屆ける心、見え隱れに後を尾けた。

吹田の宿から少し離れた新庄の宿外れに差蒐ると何時の間にか嚴重な木戸を打つて犇々と固めてゐた一群の軍兵が一々通行の者を誰何しては行先を尋ねてゐたが、お柳をうろんの女と見たのが呼止めて引捉へた上有無をいはさず近の辻堂に押籠めて了つた。

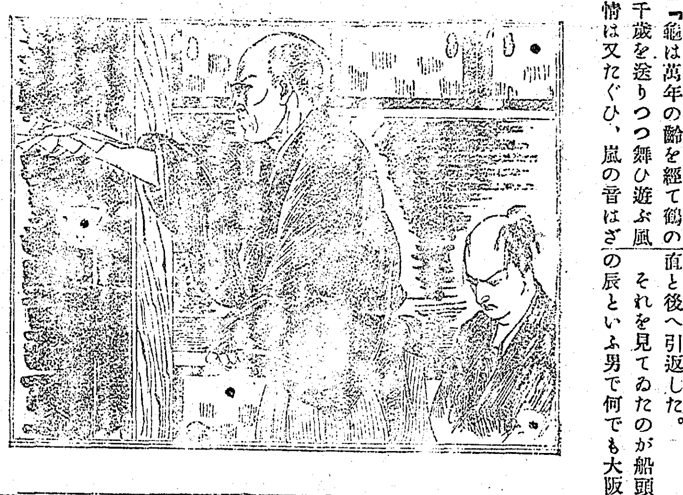
此處を警衛してゐたのが大阪在番久留米藩有馬の家臣で三木某といふ者であつた。

その辻堂は街道から少し離れて、杉木立と畑とに圍まれたかやぶきの祠であつた。本尊は馬頭觀音が何かで雨にくろずんだ板戶、蛛の巣だらけの古繪馬、怪しくも荒れはてゝゐた。

お柳がうろんと見られたのは理由がある、吹田の渡でおゆうに逢つた時に土手に駈上つて後姿を見送りつゝ少頃が程泣いてゐたかと思ふと、今度は今乘つて來たばかりの渡舟に飛込んで直と後へ引返した。

それを見てゐたのが船頭の辰といふ男で何でも大阪騷動に關係のある女に相違ない目星をつけ御褒美の酒代にありつく心算で逸くも先廻りをして此の番所に密告したのであつた。

辻堂は番兵共の休憩所に充てゐたものらしく、辨當の殼や、土瓶、武器衣類などを取散らかしてあつた。頓て三木といふ隊長が來て嚴に取調べた。無論大鹽一味の緣者かさなくば一味の知邊の者であらうといふ嫌疑であつたが、お柳は叶はぬまでもと胸を据ゑ飽までも身許をつゝんで伊丹の者で京都に行く途中、後の立場に忘れ物をして取つて返しただけ、別に仔細はないと言張つた。でも疑は霽れなかつた。兎にあれ明日大阪の町奉行に送るから左樣心得ろといふので、其儘辻堂に押籠め嚴しく警護させた



ラヂオ

二十二日（木曜）
仙臺 JOHK

△六、〇〇A ラヂオ體操
△六、三〇 佛敎講座（原人論）栴檀中學々長櫻井鐵山
△七、〇〇〇 彼岸會法要
△九、〇〇A 氣象
△九、一〇 料理献立（馬鈴薯入のオムレツ）中村光三
△一〇、三〇A 家庭講座（秋の彼岸に蒔く草花の數々）西島樂峰
日用品値段
△正午A 時報 氣象
△後〇、〇五A 管絃樂 コロナーオーケストラ
△〇、四〇A ニュース
△二、〇〇A 家庭大學講座（倫理學）東京帝國大學講師文學博士大島正德
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇 ニュース
△六、〇〇A（子供の時間）少年講談（曾呂利新左衛門）野村無名庵
△六、二〇A コドモの新聞 關屋五十二
△六、二五A 英語講座（中等科）落合貞三郎
△六、五五A カレント、トピックス ハロルド、パーマー
△七、〇〇A ニュース 氣象 生繭相場
△七、三〇A 講演（ロサンゼルスより歸りて 一、電波となるまで…AK報道課長寶田通元 二、尊き體驗…AKアナウンサー河西三省 三、全てに感謝…BKアナウンサー島浦精二）
△八、〇〇A ラヂオ風景（ナンセンス國のラヂオ）
△九、〇〇A 連續講談（天保六花仙…くらやみの丑松）神田伯龍
△九、三〇A 時報
△九、三一A 滿洲より
ニュース 氣象、生繭

---

cafe
喫茶と食事
吾妻
聚樂館南隣 電話四七〇番

ハシモトヤの毛糸
本年度新色全部揃ひました。
御値段は昨年と同じ位です。
色見本帳進呈致します。
田町
ハシモトヤ糸店
電話一[illegible]四番

横濱植木株式會社特撰
草花、蔬菜類
優良種子
各種賣出し致しました。
農園藝やく品の御相談は
西村屋藥局
電三番

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院

何が梅月をそうさせたか？
それは時代の要求である!!!
◎斷然五割安決行◎
先づ此の値を御覧下さい。

冷ビール（をとほし付）	卅五錢
生ビール 大ジョッキ	四十錢
大カップ	八錢
上酒 一本	廿二錢
ウイスキー 一杯	八錢
サイダー 一本	十二錢
うどんそば	五錢
冷しうどん	七錢
カレーうどん	十錢
冷むぎ	十五錢
カレーライス	十錢
天どん	十五錢

みつ豆、氷水一切
其他何品によらず市價の五割安
平驛前通り（新藤尾前）
梅月食堂

內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三
天水庵華道教授 岡田華悅

タクシーの御用命は
是非…尼子タクシーへ
親切安全第一を主義と致して居ります
電六四〇番
主任 澤 資之（正路改）

夜間診療
胃腸
內科
十二指腸虫病
專門
內科部
梅毒
淋病
皮膚病
婦人病
專門
外科部
松村內科外科醫院
（平町南町 電一〇七番）

市街戰演習明早曉決行

仙台の輕機三個分隊が參加

見ものは水中爆破作業

大野村のコレラ騒ぎで豫定の二十日を延期し大体今二十一日頃開催の筈であつた平在軍、青訓、磐中、平商聯合の市街戰演習は二十九聯隊に於て依然派遣兵の申請を容れぬ爲藤田分會長から更に仙臺第四聯隊へ申請の結果輕機關銃三個分隊（平分會備付一を加へ四個分隊編成）を迎へ愈々明二十二日拂曉より之を行ふ事になつたが長橋上流百米を堰き止め工兵大隊派遣の多久中佐外三名の指揮によつて行はるる水中爆破作業は極めて壯絶なものあるべしと豫想されてゐる、因に該作業は莫大なる火藥を使用し水深二米の場合は水煙實に五十米の高所に達するが前記長橋上流は堰止めの水深一米位であると想定次の通し

想定（攻軍）

一、二、三前より物見ヶ岡─學校高地を經て松ヶ岡公園に亘る線に陣地を占領しある敵に對し九月十九日拂曉敵の警戒部隊を驅逐したる歩兵第二十九聯隊第三大隊（工兵一分隊を附す）は三中隊を第一線とし主陣地に對する攻擊を準備中なり

十九日夕刻時に於ける彼我の態勢別紙第一の如し

三、同日正子大隊長は一大爆音を聞くと共に諸情報に接し第一線中隊長を招致の上左記要旨の命令を下せり、

大隊命令
於九月二十二日午前一時鎌田橋

（一）敵の陣地の狀況別紙（略）

敵は近く增援を有す

（二）大隊は明二十三日拂曉重點を左に保持し敵主陣地を突破し一擧に南赤井東西の線に進出せんとす

（三）第一線兩中隊は各當面の敵陣地を突破し今新田西北方高地に進出すべし

（四）工兵分隊は第十第十一中隊に各々半分隊を配屬す

（五）第一線中隊の攻擊行動開始は二十二日午前五時と定む

（六）豫備隊は第十中隊の左翼後前進すべし

（七）予は主として予備隊の先頭に在りて大町を前進す

附記

一、攻軍は午前四時第三小學校庭に集合（午前五時迄に配備完了）
二、防軍は午前四時平商校庭に集合（同）
三、第一次戰鬪　自─午前五時至─午前七時三十分
四、第二次戰鬪　自─午前八時三十分至─午前十時
五、忠魂碑參拜　午前十時三十分
六、統監講評　午前十一時

一時交通止

長橋附近の警戒

二十二日の市街戰に磐中、平商生の參加者は町内居住者のみでその外は見學をなすがこの空前の催しに各町村からの見物人で非常な雜踏を呈するものと豫想され工兵隊が鐵條網破壞水中爆破の前後は長橋附近の交通は一時中止すると

磐中蹴球選手出仙

全國大會東北豫選に參加

磐中では二十五日仙臺に於て催さるる全國中學校ラグビー蹴球大會東北豫選に參加すべく目下猛練習中であるが選手は左の如く仙臺工業と對戰する事に決定した

FW 五十嵐 金子 三浦 志賀 片寄 植野 近藤
TB 熊井 會田 堀川 山崎
HB 荻野 眞井 根
FB 鈴木

郡聯合青年訓練生演習

郡聯合青年訓練所の演習は來月鹿島村附近を中心として行はれるが今二十一日午後一時から平第一校に委員會を開催具体的方法に就て打合せをなし更に二十四日は主事會議を開くと今日の出席者次の如し

（磐中）八谷弘（平商）駒場繁（平）山崎清三、藤田榮助（小名濱）西横喜三郎（神谷）榊原多博（勿來）赤津一（大浦）早川文治（泉）齊藤昌孝（上遠野）櫛田爲代

。。。首席訓導協議。。。 郡第三區首席訓導協議會は今二十一日午前十時から入山小學校に於て開催出席二十名、失業打開と家庭教育の刷新向上に就て協議した

貯金稍異動

利子低下と平局

郵便局貯金利子は來月から普通四分二厘から三分に据置四分四厘から三分二四に引下げられた爲平局でも多少の引出しが行はれ銀行に預ける傾向が見えてゐると同局では毎月の保險集金が思はしくないので今後豫め拂込期日を定め益き成績向上を期する事となつた

悲觀された晩秋繭

或は漸騰を辿らん

四倉市場に微かな活氣

四倉繭市場昨二十日の晩秋繭取引高は出廻り百八十二貫、最高四十六圓三十錢、最低三十六圓、平均四十一圓七十五錢で前日より高値三圓二十錢の騰貴を見今後引續き漸騰を辿るでは無いかと觀られてゐる

縣藥協會石城支部創立

昨日マルトモで發會式

縣藥業協會石城支部發會式は昨二十日午後二時から平町マルトモホールで開催したが出席六十餘名、縣衛生課中田技師の『第五班改正日本藥局法』に關する講演後座長鈴木堅助氏より支部創立經過報告あつて支部規約を制定し左記役員を選擧し恩賜金による榮養事業の對策を協議の上五時閉會午後八時より中田技師、小田部署長を中心とする晩餐清宴を張り盛會裡に八時散會した

支部長鈴木堅助、副支部長新妻盛、鈴木富太郎、會計幹事小野常次、庶務同關内榮助、幹事阿部康五郎外十一名、縣代議員山野邊東次郎、比佐倉之助、太田政市

高粱の苅取り後には彼等も餘り橫行すまい

奉天附近に五月蠅い匪賊の出沒

赤井村出身　鈴木涉君（通信）

──愈々涼しくなつて參りました（中略）奉天市を襲擊する目的の下に約千名からの匪賊が毎夜我が警備せる○○の地區を盛に攻擊する、周圍至る所匪賊の津波で僕等○○は之れが爲に不眠の狀態です、二十七日襲擊以來毎夜襲擊し居り誠に不安です、我等は之を殲滅するの覺悟を以て日夜準備に怠りありません。この様な狀態が何時迄續くのやら全く底止する所が知れず高粱でも苅り取つたならば少しは違ふかも知れない。明日警備交代となります、必ず襲擊を豫期し居ると同時に一刻も早く不安を一掃する樣努力する決心であります。二十七日から二回も出動しました。其の度毎に敵の死骸を見る爲め驚きが無くなつた。本日正午なども敵兵十名を斬殺し悠々と引揚げて來た。之れは僕の現の先任上等兵です（後略）

植田養鷄組合評議員會 二十三日同町役場内に開き無料飼料の配給、第二共同育雛、鷄卵の共同處理其他の件を協議する

滿洲行

藤田中尉

─第七十八信─

。。。洮南に思出多し。。。

◇張は虹橋附近の戰鬪で三十年來の片腕と賴んだ參謀徐景隆を失つた彼は落膽して其まゝ攻擊を中止して再び洮南に引返さねばならない運命に逢着したのだ。私は張の○○○なしに憤慨して見たが元より後の祭りである。

。。。嫩江の畔指して。。。

◇洮南驛を後にして一路北行すれば原始的色彩に富む大地所謂蒙古の平野だ。簡素な驛白城子に達すると此の邊りから西北方に分岐してゐるのが中村大尉事件で有名なたう索線だ。たう南はかなり大きな町だが市街は全部土壁を續らしてあるあたり正に蒙古風趣濃厚である。たう昂線の沿線には鎮東泰來等と思ひ出した樣にポツポツ驛らしい驛があるのみで大部分は大廣原に介まれた名ばかりの寒村に過ない。

◇午前四時近くたう南を發つた汽車は十時過ぎ一大澤國と化してゐる嫩江の流域にさしかゝらうとして居る、第一橋梁の手前に在るた江橋。こゝから七粁半の河幅を有する嫩江には五つの橋梁が掛つて居る、第一は鐵橋で馬軍に爆破されたもの今は修理も完成して居た、第二の木橋は燒却された其殘骸が取はずされてにうず高く積まれてある。第三第四の木橋は無事だつたが最後の第五木橋は又破壞されたのだつた。

◇第五橋梁を渡ると四粁もあらうか一帶の低地で濕地だ、程なく大興驛に着いた、見渡す限りの草原であるが不可思議にも物珍らしくもこの驛を挾んで東に又西に二連の而して折重さなつた丘地がある恰好な陣營だ、馬軍はこの天險に堅陣を布いて我に頑強に抵抗したのだ。

。。。馬占山。。。とい。。ふ山は？。。

◇日本軍は更に北上を決意した、長驅してチ、ハルまで兵を進めるかも知れない、日本も强くなつたものだな等と噂される樣になつた頃、嫩江などと共に馬占山なんて文字も散見するやうになつた、馬占山とは馬の名だと思つた人は少なかつたらうが、山の名であると考へた人は相當多かつたそうだ。

◇インテリ階級の立派な紳士が陸軍省あたりに罷り出で眞面目な顔付きで馬占山とは何處の邊にある山でせうかいくら探しても見當りませんがとかなり詳しい滿蒙地圖を擴げた人もあるそうだ。その位『馬』といふ男の存在は從來日本には知られて居なかつたのである。

平窪の行人淵で香魚瀨に着く

太公望連で毎日賑ふ

秋漸く本格的に、愈々鮎が瀨に着く季節になつたので其の途の天狗連が手具脛ひいて待ち構へて居たが果然一昨十九日夜から平窪村鯨岡地内の井川の行人淵附近で盛に瀨に着き始めたのでそれと許りに出動した三十餘名中、多きは一擧にして二貫目以上を釣獲したのもあり目下の走り相場四十割を唱へ引續き賑ひを見せてゐる

實る秋

農村スケッチ

〔六〕

赤字を塡める見事な山の幸

栗の木繁る山徑に勞苦のえ物を語る

栗の木が路の兩側から頭上まで繁り合つて居る薄暗い山徑を……きのこ採りからの歸路であらう一人は畚を他の一人は手籠を持つて降りて來たが『少し休んべえ』と一人が云ふ儘に兩人は木の株に腰を下した。

A『あんまり歩いて草臥れつちやつたなあ』

B『だつて仕方がねにさ』

とBは自分の畚を見ながら勞苦に對してそれ相當の報酬があつたのか自ら慰めて居る。

×

『採れましたか』と二人が話し合つて居る處へ邪魔に入れば

『採り手が多くつてね──』

と申し合せた樣に訴へる、だん／＼聞いて見ればこの兩人は早朝から山を跋渉したのださうで籠の中には初茸や椎茸が覗かれた。

×

茄子が十ヶ一錢。葱一把一錢。馬鈴薯一貫目十錢。作る物／＼途方もない安値に二人はこれらを補塡すべく現金化された時の歡喜を胸に描いたのか『サア行くべえ』と力強い歩調を運んだ。

家内中がこの收穫を挾んだ時、そこには一切の辛苦や不安も超越して唯和樂の空氣が漂ふ事であらう。

永山氏競賣處分決定

田は好間の基本財産に

永山和平氏の酒造稅一萬三千二百圓に對する競賣は此程平稅務署に於て行はれたが田一町二畝十一歩は四千百三十五圓で好間村基本財産に宅地二百二十一坪は長橋小野園次郎氏に同五十四坪は三百圓六十三錢で永山一氏に夫々落札した

禁漁區を侵した

四倉、江名の漁船

石卷水上署で調べらる

四倉町漁船明神丸（十三噸船長吉田卓藏）江名町寶寺丸（三十二噸渡邊辰治）は過般來宮城縣沖合に出漁中禁漁區を侵したと云ふので十九日石卷水上署八卷署長以下乘り込みの警邏船貞山丸に追はれ同日午後一時鮎川港一浬の海區で取り押へられた

女菓子商服毒自殺

原因不景氣ご家内揉め

平町白井祐次郎方洵の妻菓子商安井ふじ（三二）は十八日叔父に當る多賀郡關本村大字山小屋市川淺之介方を訪れ同家に宿泊したが十九日午前一時頃猫イラズ二十グラムを嚥下し自殺を企て苦悶中を家人が發見森醫師をまねき手當を加へたが遂に死亡した、原因は生活難で家庭に風波の絶えぬのを悲觀したものである

。。。。。勿來產米改良講演。。。。。 十八日より各部落毎に開催中だが講師は勿來穀物檢査所石川、赤津兩技手である

平町國稅滯納整理

明廿二日から開始

平稅務署では明二十二日から署員總動員で平町の滯納額營業、所得、宅地各稅合計千餘圓の整理に着手するが財産差押へを斷行しても物件が賣れる見込が無いので成るべく之を行はぬ方針であると

勿來町會 勿來町會は今二十一日午前十時より開會時局匡救土木工事補助林道開鑿費金五十圓、町村道改良費六千圓、蛭田川改修七千圓、外過般起債五千圓に關する路線決定の件及右に關する各部落よりの寄採納、學務委員改選の諸件を協議した

平第一校遠足會 平第一校では二十七日左の如く遠足を行ふと

1 內郷村權現山　2 同村一ノ矢　3 平窪村二本松　4 同村大室山　5 豐間村沼ノ內　6 大浦村最勝院　高1 赤井村水石山　2 湯本町湯の丘

。。。。。演習觀戰注意。。。。。

演習部隊に近よらず、五十米以内を横切るな、軒下より出ぬ事、爆破作業の際赤旗より以内に入るな、御厩公園下の民家では硝子窓を解放する事、水中爆破の爆音と共に破片の落下に注意すること

定期航路改設陳情贊成 平町では新潟縣が吉會鐵道の開通に伴ひ新潟北鮮間直通定期航路開設方を其筋に陳情すべく今二十一日同意を求めて來たので之に贊成捺印した

社告

本社員と稱し江名方面に出沒し某漁業組合其他有志に對し金錢を强要したるものあるも本社には斯樣の者絶對無之に付今後右樣の場合は乍御手數御內報を賜はり度御願致します

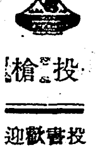
磐城新聞社

。。。。。第一校義捐金。。。。。 平第一小學校では今二十一日北滿水災義捐金二十圓を送附した

平町慶弔錄

△出生　田町十七猪また金之助六女ユリ枝　南町高瀨千之吉三女トキ子

▲死亡　舊城跡難波靜江（二）



投槍

投書歡迎

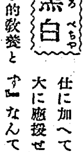
◇昨本欄『近來の奇怪事』

兒童の母から。。。。。

を讀みました私は、憤慨生さんの御憤慨もさる事乍らあゝ迄目に角を立てられては時折受持の先生をお迎へして、托して置く大事な子供の學校に於ける近狀などを話して頂く機會が無くなるでは無いかを憂ふる一人であります。

◇私とて酒の弊を認めぬではありません。而し酒が元來嗜好品である以上教員なるが故に絶對に飲んではならぬと云ふ理論は成り立たぬと思ひます。殊に年に一度の大祭に有り合せの一本半本のビール位をお侑めする事は大体今日の儀禮では無いでせうか。

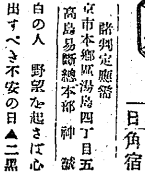
◇私も憤慨生さんと同じ町內に住んでゐる至つて教養に乏しい一女性ですが御憤慨の問題はその先生の歸られた後で乘り込んだ兩三名の客によつて行はれた賑ひ迄混同されたのでは無いかとの事です、其れは第二として私達兒童の保護者と學校當局との間はお互自制ある親しみを續けて行き度いと思ひます。（保守女）



艷罪黑白

◇豐富な文學的教養と艷麗な姿態とを以て一時新田町の女王……では無い情王（？）と仰がれた八千代れえさん今度もとの名を其儘そつくり『八千代』と云ふスマートな料理店を開業した◇じ信ある味覺來仕に加へて『先輩の爲大に應援せざるべからず』なんて意氣込んでゐる來子その他三島家一統などがからめ手から盛に張り込むだらうし將來の繁昌は神棚のお燈明をみるよりも明かな事實であるさうな◇それにしても今度は押しも押されもせぬ一個の女將としてデヴューする八千代れえさんではないかあさんの遣りつ振りは果してどんなものか、電話三百七十五番『ミナゴ、ぜえ』で呼び掛ける……はチトこぢつけが過ぎる。

舊八月二十二日
木曜　丙戌　大安　除　角宿
新九月二十二日



諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　野望を起さば心配事の續出すべき不安の日▲二黑の人　他を羨み不滿の念に驅られ焦れば更に惡し▲三碧の人　才智に誇り地位に慢ずればひん斥せらるべし▲四綠の人　程を知り不滿を壓へじ重して事に當れば吉▲五黃の人　成功のかぎは熱せいにあり萬事順調に進展せん▲六白の人　元氣加はり進展力をそへ希望通達する吉日▲七赤の人　遲疑を捨て雄飛すべき旺運の日願望成就す▲八白の人　輕動を愼しみ堅實一點張にて進むときは吉▲九紫の人　天與の幸慶を受くる日開店企業普請等亦吉

御料理　八千代
平町田町
電話三七五番

川魚御料理
大蒲燒（一人前）四十錢
うなぎ丼　二十五錢
どぜう蒲燒（一人前）三十錢
どぜう丼　二十五錢
柳川　十五錢
ヒラキうなぎ　百匁　二十五錢より
ヒラキどぜう　百匁　二十錢より
配達迅速
相馬屋
四丁目川岸通り（電話二六一番）

內科
一般
難波醫院
醫學博士　難波睦
平町大町新川端（電話五〇二番）